

在宅で吸引処置をされる方へ

(口腔・鼻腔吸引用：小児・新生児版)

旭川医科大学病院

2011年12月 地域医療連携室 作成

2013年1月 「小児・新生児版」に改訂

2020年12月 改訂





吸引処置について

<手技>

吸引方法は 口腔・鼻腔 からの吸引です。

<吸引の目的>

気道を確保し、肺炎などを予防するために、口腔・鼻腔内の唾液や分泌物、食べ残しなどを取り除きます。

飲み込みが苦手な、自分では痰や唾液などの分泌物を取り除くことが難しい場合に必要となります。

<行うタイミング>

- 口や鼻に分泌物がたまって、苦しそうなとき
- 嘔吐したとき
- 栄養注入の前後など



<必要物品>

1. 吸引器 (機器名: _____)

➢ 購入もしくは業者からのレンタルになります。

2. 吸引カテーテル (種類: トップ _____ Fr 40cm)

➢ ご自宅では口腔・鼻腔内は1日に1本のペースで交換します。
痰の量や、性状によって必要な数を相談します。



3. 容器にいれた水道水

- 水道水は1分ほど流した新しい水を用意しましょう。水道水の塩素が消毒のためには重要なので、地下水や浄水器の水は使用しないでください。
- 容器は紙コップであれば1日1回交換、専用カップを用意する場合は1日1回は洗浄乾燥させましょう。
- 1回の吸引ごと、水は新しいものを準備し、終了後は捨てましょう。



4. アルコール綿

➢ 必要なカテーテルの本数に合わせてお渡しします。



吸引処置について

<手順>

1. 石鹼で手をきれいに洗い、手指消毒薬で消毒します。
2. 吸引器側についているチューブと吸引カテーテルを接続します。
3. 吸引圧を _____ に設定します。
 - 圧が高くと、口腔・鼻腔内の粘膜を傷つけるので、指示された圧を守りましょう。
4. 吸引カテーテルの根元を親指で押さえて折り曲げ、吸引圧がかからないようにして、口の中(奥まで入れない)または鼻(_____ cmくらい)にゆっくり入れます。

口と鼻、両方の吸引が必要な場合は、口→鼻の順で行います。
5. 入れたら押さえていた親指を離し、吸引カテーテルを指をこすり合わせるようにして回転させながらゆっくりと抜きます。
 - 吸引した痰の観察をしましょう。
 - 1回の吸引は10秒以内が目安です。
6. カップ内の水道水を通して、カテーテルの内側に付着した痰や唾液を取り除きます。
 - 繰り返し吸引の必要がある場合は、4～6の手順を繰り返します。
7. 吸引後のカテーテルの外側は、アルコール綿で拭き取り、完全に乾かします。
8. 洗浄後のカテーテルは吸引器から取り外して乾燥させます。
9. 石鹼で手洗いをして終了です。





吸引の注意事項

<手技の注意点>

- 吸引カテーテルが入りにくいときや入らないときは、無理に押し込まないでください。
- 吸引中に呼吸状態や様子の変化がみられたときは、一旦、吸引操作を中止します。呼吸が出来ているかを確認し、様子が落ち着いてから再度、吸引を行います。

呼吸が出来ていない場合は、背中をさするなどして呼吸を促してください。刺激を行っても呼吸が出来ていない場合や状態が改善しない場合は、救急車を呼ぶ・医療機関に連絡・相談してください。



<観察のポイント>

- ① 呼吸状態（息を止めていないか、苦しそうではないか）
- ② 顔色（白っぽくないか、赤くないか）
- ③ 唇の色（紫色になってないか）
- ④ 痰の固さ（水っぽいか、粘りが強いのか）
- ⑤ 痰の色（黄色・緑色・ピンク色など）

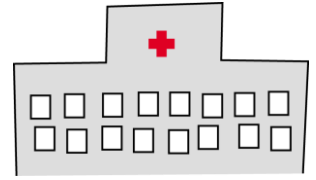


吸引の注意事項

<日常生活の注意点>

- 口の中が乾燥すると痰が出しにくくなります。ガーゼで口の中を湿らせたり、歯磨きをすることで、口の中の乾燥を予防してください。
- 空気が乾燥していると痰は固くなりやすいので、室内は適度に加湿しましょう。
- 吸引カテーテルは、洗浄して再利用できます。痰が固いときや、外出時・緊急時には、使い捨てにするなど使い分けてください。
- 洗浄した吸引カテーテルは、小さな洗濯用ハンガーなどに吊るして乾燥させると便利です。できるだけ清潔な場所で乾燥させてください。
- 吸引カテーテルは、定期的に新しいものに交換し、燃えないゴミ(地域の指定に従ってください)に捨ててください。
- 吸引瓶に溜まった吸引物はトイレに捨て、毎日流水で洗浄しましょう。
- 吸引器のお手入れは、器械に付属されているパンフレットに沿って実施して下さい。





在宅での医療材料の入手方法

- 退院時は、外来受診時までの必要な物品を病棟から渡します。
- 外来受診時は、1か月ごとに栄養管理に必要な物品を、診察時に医師や外来看護師と確認して、1階「**在宅物品受け取り窓口**」で渡します。
- 退院時や外来受診時に物品を渡す場合には、治療費に含めて在宅処置指導管理料が加算されます。疾患や保険の種類、栄養管理以外の処置の有無によって、自己負担額はかわります。

緊急時の連絡先

- 吸引しても呼吸が苦しい状態が続いている、吸引後の粘膜からの出血が止まらないなど、状態の変化や心配なことがありましたら、下記までご連絡ください。

<旭川医科大学病院 連絡先>

- 平日8:30~17:00 _____科外来 0166-69-_____
- 休日・夜間 救急外来受付 0166-66-9901

<その他連絡先>

- 訪問看護ステーション ()

ご自宅で安心して過ごせるように、
これからも支援していきます。
困ったことがあったら、遠慮せずに教えてください。



必要物品チェックリスト(口・鼻用) 1か月/4週間分

ご自宅でどの程度物品が必要になるかを一緒に考えましょう。

退院・外来受診時に渡すもの	使用頻度	個数/4週
<input type="checkbox"/> 吸引カテーテル ____Fr 40cm	____日__本	本
<input type="checkbox"/> アルコール綿	1日____枚	枚
<input type="checkbox"/>		
<input type="checkbox"/>		
<input type="checkbox"/>		

個人で準備していただくもの	備考
<input type="checkbox"/> 通し水用のカップ	
<input type="checkbox"/> 洗濯用ハンガー(洗浄して再利用する場合)	
<input type="checkbox"/>	
<input type="checkbox"/>	
<input type="checkbox"/>	
<input type="checkbox"/>	

口鼻腔吸引手技自己評価チェックリスト

- A) 看護師の援助なしでできる
- B) 看護師の援助によりできる
- C) 看護師が実施

内 容	/	/	/	/
1. 手洗いをして必要物品の準備ができる				
2. 吸引前に、声掛けができる				
3. 吸引器の電源をいれ、吸引圧を調節できる				
4. 吸引器側のチューブと吸引カテーテルを接続できる				
5. カテーテルは適切な長さを挿入できる				
6. カテーテル挿入後、痰を吸引できる				
7. 吸引した痰の観察(色・固さ・量)ができる				
8. 1回の吸引時間は10秒以内を目安にできる				
9. カテーテル内側の痰をしっかり取り除くため水を吸引できる				
10. カテーテル外側の痰をアルコール綿で取り除くことができる				
11. カテーテルをはずし、乾燥ができる				
12. 吸引器の電源を切り、後始末ができる				
13. 吸引前後に、状態観察ができる				
看護師のサイン				

その他のチェックポイント

- 吸引時の注意事項が言える
- 日常生活の注意事項が言える

メモ